

CMPドレッサー

韓・台勢が強み発揮

低価格化プラスαも必須

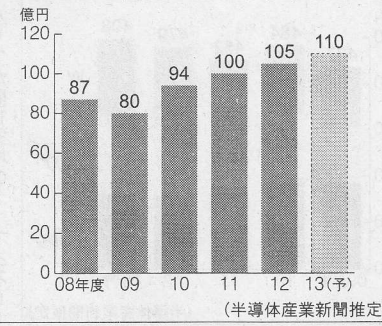
CMPドレッサー(コン

増えている。

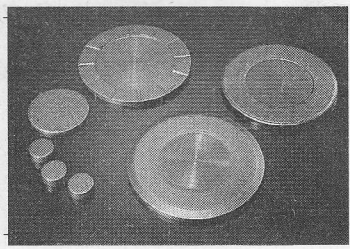
ディショナー)の2012年度の世界市場は約105億円となった。ここ数年成長著しい韓国セウルタイヤモンド、台湾キニックと米スリーエムがトップシェアを争っているが、12年度はセウルがわずかの差でトップとなった。前年比微増の伸びにとどま

一方、日本市場では旭ダイヤモンド工業がトップを堅持しているが、11年に撤退した三菱マテリアのシェアを世界市場での3強が分け合い、トップの旭ダイヤを猛追しているという状況。ノリタケやアライドマテリアルなどの日本勢も依然健闘しており、日本市場は激戦となっている。

ここ数年、デバイスメーカーからの低価格化要求に対応すべく、ドレッサーメーカーは低価格品に注力してきた。低価格品は、基板をステンレスからポリカーボネートなどに置き換えることでコスト低減を図った製品。ただ最近では、それ



キニックはTSMCが最大の顧客となっており、メモリーとファンドリーの世界最大手にある意味、鍛えられた技術力には定評があり、他社からの引き合いも



キニックのドレッサー

に加えて製品ラインアップ拡充などプラスアルファの戦略も必要性が高まっている。低価格品だけでは利益が確保できないこともあり、各社ともあらゆるニーズに対応すべく、製品群の拡充を図ろうとしている。

セウルタイヤモンド(カイ)

韓国のセウルタイヤモンド(日本国内での販売は株式会社カイが担当)は、独自の製造ノウハウを駆使し、砥粒の欠けや離脱が全くなく、またスクラッチが全く発生しないCMP用パッドコンディショナーを開発している。その高い技術力には定評があり、メモリーメーカー向けを中心にここ数年大きくシェアを伸ばしており、ワールドワイドでトップシェアを獲得している。

日本国内でも業績を伸ばしており、現状3番手まで追いついているようだ。

13年は、高密度タイプの「HIVE」、オキサイドのライフタイム延命に貢献する「SB」タイプ、メタル系のライフタイム延命に貢献する「FS」タイプ、マイクロスクラッチの低減に貢献する「SR」タイプという4種類の新製品を発表している。

なかでも注目目は「SR」で、パッドの削りかすの粒子の大きさを従来の半分以下まで小さくすることができ、これにより、パッドに起因するマイクロスクラッチを大きく低減できたため、注目を集めている。今後はこれらの新製品を新たな武器に、世界市場でさらなる攻勢をかけていく。

のあらゆるニーズにきめ細かく対応できる体制を確立していきたい考えだ。

リテーニングを開発しているほか、バックグラインド用ホイールや液晶の洗浄工程用ブラシも開発中。なかでもバックグラインド用ホイールは、今年から本格的にリリースする構えだ。

このほかにも、PEEK